

Contents

P1~ 今回の本キャンプについて、リーダーからのメッセージ

はじめに

P2~ そもそもどういう団体なの？

FIWC 九州について

P3~ このキャンプをともに作り上げてくれた

現地のメインパートナー紹介

P4~ 私から見たあのひと・・・

他己紹介

P10~ どんな風に一か月過ごしていたのかな？

本キャンプスケジュール

P11~ どんな村に滞在・ワークしていたの？

村の MAP

P12~ フィリピンでの衣・食・住をそのまま紹介

現地での生活状況

P20~ それぞれの反省・課題・成果

係報告

P34~ 竹で作られていた橋をコンクリート製に

2017. ワーク内容

P41~ 現地村人との交流の場となった

Future meeting

P44~ なにか、村に対してできることはないか？

Activity for Village(アクフォビ)

P46~ キャンパー一人ひとりが1枚を選びます

私のベストショット

P51~ 実際に感じた本キャンのこれが言いたい

私の感想

はじめに

燦々と照り付ける日差しの中、約ひと月の間僕ら 18 人は全力で笑い、考え、語り、輝いた。今となっては一瞬の夢のようなそんな儚く淡い限られた時間だった。僕らにとっても非日常、彼らにとっても非日常、そんな日々の中で過ごしたすべての時間は未来の僕らを動かす光になる。人生はなるようにしかならない。この 18 人だからこそ BUTASON I 村だからこそできた今回のフィリピンキャンプ。そんな一つ一つの縁に感謝している。



僕たちは BUTASON I 村に“NALIPAY 橋”という名の橋を架けた。“NALIPAY”はビサヤ語で“幸せ”を意味する。この橋が架かることで村には変化が起きる。小さな変化かもしれないけれど、この橋をきっかけに将来の BUTASON I 村に“幸せ”が溢れるように。そんなみんなの願いがこもった“NALIPAY 橋”はどんな災難にも負けず、そびえ立ち、村人一人一人を村人と僕たちを末永く繋いでくれるだろう。

今年は新たなことにたくさん挑戦した。10 年以上たくさんの方の思いでつながれてきたフィリキャンは今“転換期”にある。これまでの人たちがこのフィリキャンに込めた思い、それらをしっかり受け継ぎながらも、状況、環境に合わせて柔軟に変化、改革をもたらしていかなければならない。より愛されるフィリキャンになるため。より村人に寄り添う支援であり続けるため。フィリピンへ行く前はたくさん不安があった。でも今回いろんな挑戦をしてみて今なら自信を持ってやってよかったといえる。だから今回のキャンプはフィリキャンの歴史、BUTASON I 村の人々の心、そして僕たちの心に深く『刻』まれ、未来のキャンパーたちも彼らなりの思いを『刻』み続けていくのだろう。



2016 年度フィリピンキャンプリーダー 渡邊 諒

何をしている団体なの？

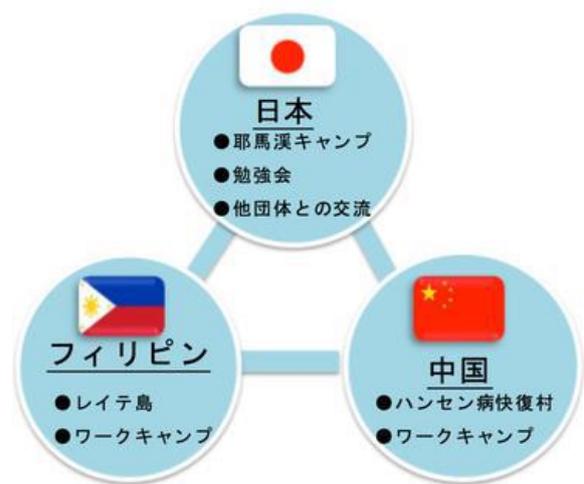
FIWC について

Friends

International

Work

Camp



FIWC 九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

< 国際活動 >

○ 中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

○ フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

○ ネパールキャンプ

震災支援として、今年度発足。ウォーターシステムの整備を行う。

< 国内活動 >

○ 耶馬溪キャンプ

年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

○ FP (FIWC Party)

月1回程度、博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会&交流会。

○ その他

学祭、まんば (Monthly Party)、総会、国内合宿 など

*他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さがFIWC九州の特徴です。また、FIWCは九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンパーだけでなく、国内活動も一緒に参加してくれる大学生を募集中！！



この人達を語りずして誰を語る 重要人物紹介

ついに大公開!!!



愛娘のジャミンさん(左上)とほほ笑むロクロクさん(右上)お茶目にピースサインをするカピタン(右下)とチーフタノツドのクヤアラン(写真中央)クヤアランは元凄腕スナイパーとの情報も得ている。ハバルといえはクヤロメル(左下)おなががいつぱいと約束をすつぽかすがいい人。(キャンパー撮影)

スキルワーカーはこの3人



左からポボン、リックリック、ティティン

この方々を語りずしてFIRCのフイリピンキャンプを語ることはできない。私たちがキャンパーのエンジニアであり、タイ(お父さん)であるロクロクさん。今回のキャンプでは体調も比較的よく、キャンプ前に資材費の下見に行つてくれていたり、毎晩MTGでワークのことやそれ以外のことも全部共有してくれたり、常に私たちのことを気にかけてくれたり...と、ここには書きつくせないくらいお世話になりました。今回ワークをしたプタナン村の村長さん、アテジョージ。

この春は忙しそうで、なかなか一緒に時間を過ごすことができませんでしたが、私たちのワークや生活をいつも陰から支えてくれました。ジャバニスフマテイバルでは自らサックレースに参加したり、完成した橋の上でセルフィーをたくさんしてFacebookに投稿してくれていたりと、おちやめでかわいみんな大好きカピタンです。タノツドとは村の警察のような役割をしている青年たちです。マーケットや村の外に行くときは必ず付き添ってくださいました。私たちが安全に...

キャンプを支えてくれた人々の中からピックアップして紹介

か月のキャンプを終えることができたのは、彼らのおかげです。ワークにおいてもバヤニンとして活躍してくれました。橋のワークは技術的な作業も多く、それを一手に引き受けてくれたのが、現場監督ティティン、コランバー職人ポボン、溶接職人のリックリックのスキルワーカー3人衆です。彼らはアルブエラからロクロクさんと一緒に来てくれました。朝早くから、土日も毎日のように作業をすすめてくれ、帰るまでに無事最後まで終わらせることができたのは彼らのおかげです。最後は我がタバング市のメイヤー(市長)。カウンターパートだけでなく、フエアウエルにはわざわざ足を運んでくださりひとりずつ賞状を手渡ししていたが素晴らしい。市からの協力があったのなりパイ橋です。しかし、忘れてはいけなほどこに書ききれないほど多くの方々が私たちのキャンプを支えてくださった、ということだ。感謝を胸に、これからもFIRCとして活動していきたい。(文責 三島はるか)



ベンジョ-市長

どんな風に
一か月過ごして
いたのかな??

本キャンプスケジュール

BUTASON I Camp Schedule 2017

	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
	2/21 出国	2/22 セブ着→ レイテ着→ BUTASON 着	2/23 GAM 表敬訪問	2/24 Work	2/25 アクフオビ	2/26 Work
2/27 Work	2/28 Work	3/1 Work	3/2 Work	3/3 Work	3/4 後発組着	3/5 Work 星を見る会
3/6 Work	3/7 Work	3/8 Work	3/9 休み	3/10 Work	3/11 ジャパフェス	3/12 Work
3/13 Work	3/14 Work	3/15 Work	3/16 Work	3/17 Work	3/18 自由行動 星を見る会	3/19 Farewell Party
3/20 BUTASON 発→ セブ着	3/21 帰国					



BUTASON- I の見取り図

シンシン家



村一番の美形&エリート一家
アテローナのごはんは絶品

ハニー家



ブタソで一番由緒ある家
夕方はお茶スポットに!!

マーク家



子犬と子猫がとにかくかわいい!!
ブタソで癒しを求めるならココ

ケビン家

ヘルスセンター

3週間ここに18人で滞在し、最後の1週間は各ホームステイの家庭で過ごした。ヘルスセンターの横には balan がいホールという村役所、前には村人たちが集うバスケットコートがある。

学校

バスケットコート

ナナイフロア家



ブタソ最大のサリサリストア
コールドドリンクはここでゲット

ペンペン家



チョコ味のアイスキャンディーと
いえばペンペン家のサリサリ!!

レイリー家

エイモス家

ローレンス家

シーナ家

ドウナ家

エリザベス家

川



教会

カピタン家



ホームステイ前にご飯を
食べていたのもここ!!

タタイレミー家



今回唯一橋の向こう側
家の周りには水田が広がる

～衣食住～

フィリピンの生活状況はこうだっっ！！

衣

フィリピンといえば「一年中暑い」「雨がよく降る」と想像する方も多いかもしれません。**ズバリ！！**まさにその通りです。フィリピンでは一年を通じて暑い日が多く、雨が降る日も多いです。なので基本は半袖半ズボンとサンダルで過ごします。半袖のTシャツは現地で安く購入できるのでお気に入りのシャツを選んで買っている人もいました。



夜などのたまーに寒い日は長袖を着る人も見られます。キャンパーはワークを行う際に、強い日差しによって体力が奪われたり熱中症になるのを防ぐため、帽子を被ったり長袖を着たり、日焼け止めを塗ったりする人も多かったです。

食

「フィリピンのご飯はおいしいの?」「日本人の口に合うのかな」

これはよく聞く質問です。でも安心してください。フィリピンの料理は一言で表すと・・・

うまい!!!!

です。ただそれだけです。



↑肉じゃが



パンシット↑

写真を見て多少分かっていただけと思いますが、フィリピンの料理は日本人の口に合うものばかりです。



元々、フィリピンはスペインの植民地であったため、スペイン料理の味付けの名残があると言われていんです!!!!

←肉類はキャンパーたちの大好物なので「いただきます」の号令と同時に過酷な争奪戦が始まります。

次に水についてですが、現地の水道水を飲むのは極めて危険なのでミネラルウォーターを購入して飲むようにしていました。

ワーク時には保健係がポカリスエットなどのスポーツ飲料を作ってくれました。



↑暑い中でのワークが終わった人の中には、村の売店であるサリサリでコーラ、Spriteなどの炭酸飲料を飲む人が多かったです。疲れた体にはやっぱりこれでしょ！

そしてフィリピンではお酒が美味しい！！有名なのはフィリピンのウィスキー「エンペラドール」です。少し味に癖があるのでトゥバが苦手なキャンパーも・・・飲みすぎに注意！！





また、キャンパーに最も人気があったのはこの果物！

←カイミートです。味は柿という人もいれば、ブドウという人もいます。つまり特殊な味がします。また食べたいっ！！

誕生日などのお祝い事があるとブタの丸焼きが出ることもあります。めちゃめちゃおいしい！！⇒⇒



そして、フィリピンといえばやっぱりこれ！！

ココナッツ！！！！



中には美味しいココナッツジュースが入っています。

中の実の部分も甘くておいしい！！

住

一ヶ月間キャンパーはどこで寝泊りをし、生活していたのか？

答えはここです！⇒

ヘルスセンターという村の診療所のようなところを借りて生活をしていました。

他にもデイケアセンタという場所も利用させてもらいました。



中はこのようになっております⇒



寝るときは床にゴザを敷いてみんなでゴザ寝です。暑い夜でも扇風機があるので快適に寝ることができました。蚊やアリなどの虫刺されには要注意。中には蚊帳を独自で完成させ、その中で寝ているキャンパーも・・・

続いてはトイレです。フィリピンのトイレは便器の横に大きなバケツと桶が置いてあります。

用を足すと桶で水をすくって手動で流すというものが主流です。

ですが、私たちが泊まったヘルスセンターにはなんと！水洗のトイレがあります。

キャンプ途中で水洗トイレが使えなくなるというアクシデントが発生しましたが、何事もなく終わることができました。



次は洗濯（ラバ）です。キャンパーの汚れた服はすべて手洗いします。

洗濯機とは違って汚れがなかなか落ちにくい・・・

「ラバはワークよりもきついわー」との声も上がっていたことも。

こちらはサリサリ。お菓子やジュース、アイスやお酒などを売っている村の売店です。村のあちこちにあり、それぞれで品ぞろえも違います。どこのサリサリにどんなものが売っているのか色々と調べているキャンパーもいました。



最後にお風呂についてです。現地の人々は湯船につかる習慣がないので、バケツの水を桶ですくって浴びます。通称「リーゴ」といいます。真夏にシャワーを浴びる感覚です。気持ちいい！！



次は乗り物。普段利用していたのはバイクとボート、トラックが多かったです。

←バイク(通称ハバル)。風を切る感覚が最高です。

ボート



マーケットに食料を買いに行くときに利用。ジャングルを探検しているような気分を味わえます。



係報告★会計-ACCOUNTANT-

●仕事内容

生活費の徴収・管理、収支の確認、換金

●費用の目安

食費 50(P/人)

ロクロクさん感謝費 600(P/日)

空港税 750(P/人) ※空港費は個人費から

●換金

270,000 (円) →116,484 (P)

●全体収支

149,025 (P) -134,183 (P) =14,842 (P)

残りは来年度下見費用に

●FAREWELL PARTY

FIWC

バボイ : 10,000 (P)

カンディー : 4,500 (P)

スパイス : 500 (P)

ドリンク : 925 (P)

MAYOR

100人分のケータリング

*BUTASON I *

17,000P



※地区によっては、ドリンクを買う余裕のない地区がある。今回はフェアウェルが始まってから買いに行ったが、事前に用意しておけばよかった。

※今回は、市と村と FIWC が協力して予算を組んだ。生活費から捻出するので、事前に予算を組んでおくと良い。

●会計の様子

普段会計は、夕食を食べ、リーゴ（沐浴）後に行われています。

会計はみんなの生活に関わる重要な仕事なので、必ず二人体制で行われています。



だしPON



まなか

●個人旅費目安 単位：P

旅費	50,000
保険料	10,000
生活費	16,000
個人費	10,000
キャンプ参加費	10,000
合計	96,000

●収支報告

	収入（単位：円）
繰越し金	822
生活費	11,684
OB・OGから	31,719
合計	149,025

	支出 (単位 : P)	
食費	食材費	19,307
	水	1,910
移動費	バン	6,800
	スーパーキャット	24,840
	入港費	900
	荷物代	800
	タクシー	480
	トライシクル	625
	バス	400
	ハバル	300
	船代	3,500
	ターミナル	450
	SM 荷物代	540
	ガソリン	700
	チップ	80
宿泊費	宿泊費 (後発)	2,171
	宿泊費 (先発)	2,287
通信費	ロード	900
生活雑費	トイレットペーパー等	844
farewell party	食材費	15,000
	ドリンク	925
人件費	感謝費	18,700
その他	返金	20,000
	ホテル代	10,000
	ポストカード	870
交際費	星を見る会	854
	合計	134,183

●総括

*予算計画が甘かった。出国前にある程度見積もりを行なって行くべきであった。

*前半は、お釣りの確認の徹底を行わなかったせいで、収支が合わず苦勞した。

*今回はマーケットに行く回数が少なかったため、後半からは収支の計算を余裕を持って行っていた。

*食費は、限度額ギリギリまで、マーケットで使うように、徹底すべきだった。

→毎回200~400(P)余っていた。

→お世話になっているカピタン家の負担に。

*今回は、生活費は会計が個人的に管理を行っていたが、安全面で不安が残るため、改善の余地がある。

*節約を常に心がけていたので、最終的にかなりの額が余ってしまったが、来年度の繰越金に回せたのでよかった。

→その反面最初からわかっていたら、有効に予算を使えた。



係報告★イベント係

2017.3.11 Sat 14:00~

Japanese Festival @elementary school



オケラ〜
サラマ〜



Program 01

日本語教室

- ☑ 「おはよう」「ありがとう」などの簡単な挨拶から「パリピ」などの日本の流行りの言葉も！
- ☑ ノートと鉛筆を渡して、実際に書いて覚えてもらう！
- ☑ 最後はみんなでクイズ大会！

Program 02

ダンス ~ 『恋』(星野 源)

- ☑ 本番に向けてキャンプ前からみんなで練習しました(笑)
- ☑ 村人と一緒に sayaw na ! (「踊ろう！」)
- ☑ 制服 JK ゆうきの登場で大盛り上がり??



Guwapa!!



＼みんなでさくらんぼポーズ！／



Program 03

歌 ～ 『チェリー』(スピッツ)

『さくらんぼ』(大塚 愛)

- ☑ 歌詞カードを配ってみんなで歌いました！
- ☑ 歌うのが4回目のチェリーは子供たちもみんな上手(^_^)
- ☑ フィリキャンメンバーに声かけて、子供たちが歌ってる動画見てみて！可愛いから！！

Program 04

スナックタイム～豚汁

- ☑ 日本から味噌を持っていき、豚汁を振る舞いました！
- ☑ 子供たちに大人気！
- ☑ キャンパーも久々の味噌で落ち着く…(笑)
- ☑ 豚汁の材料
サユッティ(大根…みたいな?)・パボイ(豚肉)・にんじん・ジャガイモ

大きな鍋で30人分作りました！(笑)



＼lami kayo!!／

Program 05

ゲーム ～ ドッジボール・サックレース

- ☑ ドッジボールは、ルールを現地の学生に現地語に訳して説明してもらいました。
- ☑ 初めは戸惑っていたけど、みんな積極的に参加してくれたよ
- ☑ 子供みんな大好きサックレースは村長さんも参戦??(笑)



＼村長さんも全力!!／

Program 07

フィリピンのゲーム ~ Slipper - X

- ☑ 村長さんからの提案で現地のゲームを教えてもらえることに！
- ☑ スリッパを投げて相手にぶつける超暴力的ゲーム(笑)
- ☑ スリッパを投げる難しさにキャンパー大苦戦…



Japanese Festival 反省

(1) 準備面

- ・準備が全体的に遅かった
- ・日本での準備が不十分だった(味噌・鉛筆削りの準備 etc…)
 - 日本での話し合いの徹底
- ・タイムスケジュールをキャンパーに共有できていなかった
 - MTG での共有
- ・ポスターは小学校、サリサリの壁などに事前に貼っておくことができたため、宣伝はできた
 - ・小学校の先生方にも宣伝をお願いしたので、子供たちを多く集めることができた



(2) 当日

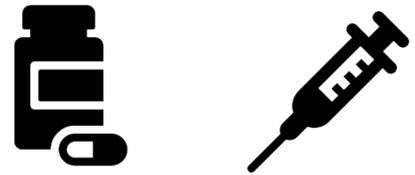
- ・停電によりサウンドシステムが使えず、音楽などを大音量で流すことができなかった
 - ジェネレーターもあつたため対応できたのでは？
- ・雨で中止するかどうかの判断が遅かった
 - 中止・延期した場合どうするかも事前に考えておくべきだった
- ・歌詞カードの枚数が足りていなかった
 - もっと多く印刷していくべき(今回は40枚印刷していた)
- ・日本語教室のバリエーションを増やす
 - 挨拶の表現だけではなく、簡単な自己紹介の文章など
- ・フィリピンのゲームを教えてもらうことができた
 - これは今までにはなかった良かったこと！今までは日本文化をただ伝えるだけだったが、逆にキャンパーもフィリピン文化を知ることができた。文化交流としての Japanese Festival になったのではないかと思う。



係報告★保険係

●仕事内容

保険バックの携帯、管理、キャンパーに体調管理の声掛け



●反省

- ・ステイ場所とワーク地が近かったため保険バックを持っていくのを忘れてしまう事があった。
- ・ワーク地が近くにあるため、気が緩んでしまいワーク開始時間までにスポーツドリンクの準備ができていない時が何度かあった。
- ・病院に行くような大きな怪我はなかったが切り傷や擦り傷などが多く、保健バックの絆創膏がキャンプ途中で足りなくなった。保健バッグの中の絆創膏の量を増やし、キャンパーにも、なるべく自分で持ってきた絆創膏を使うようにもって呼びかけをするべきだった。



保健バッグの中身 大

レスキューシート	5つ	ピンセット	2つ
アルクイック IP	1箱	赤玉はら薬	1箱
虫除けスプレー	2つ	正露丸	1ビン
ムヒ	2つ	体温計	1つ
爪切り	2つ	ロキソニン	少量
フィリピンの薬	1つ	タミフル	1錠
ザ・ガードコア	1ビン		

保健バッグの中身 小

つめきり	1つ	絆創膏	5枚
ムヒ	1つ	ティッシュ	1袋
虫除けスプレー	1つ	バンテリン	3つ

今回保健バッグの中身の消費が激しかった。そのためキャンプ前に補充したほうがいいのをあげる。

絆創膏	1箱	マスク	1箱
消毒液	3つ	ポカリの粉	適量

係報告★KP



僕は KP 担当の鴻志郎だよ！

KP のポイントについて話していくばい！



まず、KP について！

これは、Kitchen Police の略。

フィリピンでは共同生活を営むんだけど、その生活が円滑になるように管理・サポートをする係なんだ。

大きい仕事として

1. 生活用品の管理(トイレトペーパー、袋、ハンガー等)
2. トイレ掃除、ラバ(洗濯)、食器洗いのシフト表作成
3. 水の管理

の、3つがあるよ！

それぞれ振り返っていこう

1. 生活用品の管理 について！

日本からたくさん品物を持ち込んだけれど、反省として

トイレが詰まってしまうことが多くて苦労したから、その対策が必要だったこと

ガムテープが欲しかったこと

があげられるかなあ。

今回は、キャンパーがそれぞれトイレトペーパーを2ロール持ち込んでくれたけど、トイレトペーパーがホームステイに向けて最終的に足りなくなってしまい買い足したから、もっと厳重な管理が求められてくる！それぞれのトイレの中にトイレトペーパーが放置されていたりしたから、無くなってしまったんだろうなあ。きちんと1か所に集めるべきだった。

あと、黒い袋(小)もたくさんあったはずなんだけれど無くなってしまって大変だった！これもトイレトペーパーと同じ理由やね。

2. 掃除、洗濯、食器洗いのシフト表作成について！

誰かが連日シフトに組み込まれたりしないように、そして回数が同じになるように組んだ！みんな都合の悪い日は誰かと変わってもらったりして、うまく進んだんだ！でも、休みの日曜日にいつも仕事が割り振られていた人がいたりして、完全ランダムにした方がよかったかな～。

3. 水の管理 についてだよ！

今回は水のタンクからそれぞれのペットボトルに移し替えて、水を汲んでいたんだ。水の消費が激しくて、タンクがすぐ消費されてしまうから、タンクの補給を 2~3 日に 1 回やっていたんだ。水が尽きるなんてことはほとんどなかったし、なんとかなったよ！

タンクの数が増えた時にはすぐ、マーケットに持っていったり、村人に頼んで、タンクに水を買いにいかなければならなかったから、お金も飛ぶってこともあるし、もう少しタンクの数を増やすべきだったかな。タンクが 1 番多いときは 5 個あったけれど、紛失などで 3 個にまで減ってしまったんだ。タンクの管理ももっと厳重に！

そして、ペットボトルもだんだん数が減ってきてしまって買い足したんだ。どこかに忘れてたりしないよう気を付けよう！

係報告★ホームステイ

●仕事内容

- ・GAMでホームステイについて説明。
- ・村長にホームステイする家の候補を挙げてもらう。
- ・ホームステイする家の調査。
- ・パスポートの管理。



《ホームステイ先決定までの流れ》

1、候補の家を挙げてもらう

村長にホームステイを受け入れてくれる家の候補を挙げてもらう。今回のキャンプでは7軒挙げてもらった。

2、ホームステイ先の調査

チェックシートをもとに、家族構成、英語を話せるか、トイレはあるか、ペットの有無、受け入れ可能人数、などを尋ねた。

3、希望調査

チェックシートを掲示してキャンパーにホームステイ先の家庭の詳細を確認してもらい、第3希望までのホームステイ先の希望と個人的な要望を書いて提出してもらった。

4、ペア決定

希望調査をもとにホームステイ係で公平にメンバーとホームステイ先を決定した。

～ホームステイメンバー～



～ハニー家～

かいせい、りこ、たくや

～カピタン家～

ゆうか、まこ、やたろー





～シンシン家～

しょうま、あまね、こうじろう

～ペンペン家～

はるか、ゆうき



～リミー家～

りょう、こうじろう



～Mark 家～

しほ、ぽん





～ナナイフロー家～

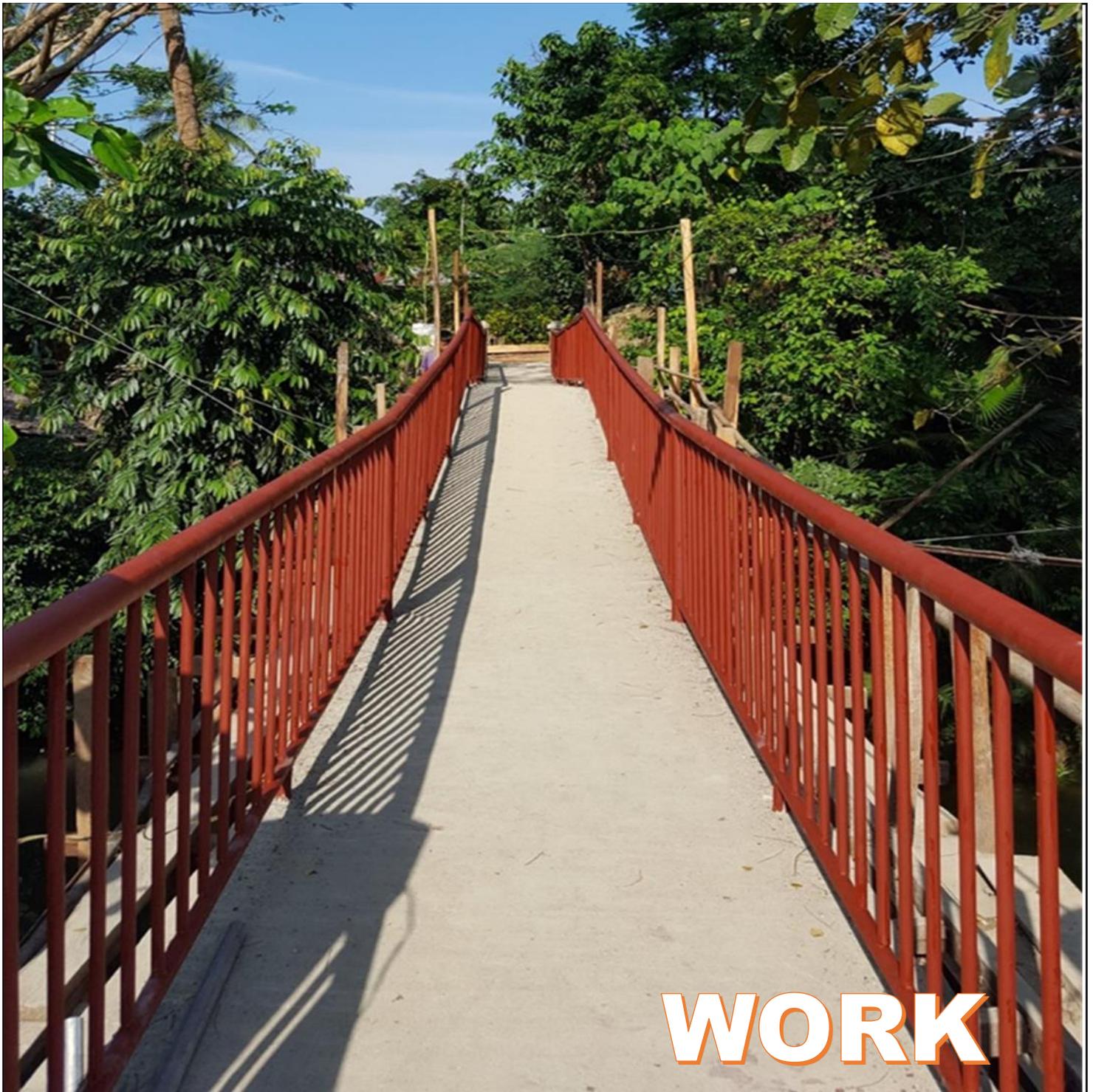
かずま、よしや、まなか

《パスポートの管理》

今回は、パスポートを全員分集めて村長の家保管してもらった。3日に一度、村長にお願いして全員分のパスポートの確認をした。

●反省

ホームステイが始まってから 10 時以降外出禁止という決まりを守れていない人がいた。日本人ミーティングの時に 10 時以降外出禁止というきまりをきちんと確認しておくべきだった。日本人 MTG の時間と夕食の時間がかぶってしまう家庭があったので、ホームステイ先の調査の時にご飯の時間を聞いておき MTG の時間を調整するべきだった。しかし、大きなトラブルもなくキャンパーみんながホームステイを楽しんでいたのがよかった。



今回のワークは橋の建設を行った。この橋は村の中心部へと続く橋であり、この橋が出来ることにより、子供たちが安全に学校に通うことが出来、大人たちは農家へと働きに出やすくなるといったような様々な利益があると考え、橋の建設に踏み切った。

橋の建設という規模の大きいワークとなったため、予算を村と市と出し合い、PHASE を分けて建設を進めた。以下に PHASE 順に作業工程を記す。

ABOUT WORK

PHASE 1



1. 元の橋

ご覧の通り川の上に竹の橋を架けただけの簡素な橋。足を踏み外せば下に落ちる可能性は非常に高く、過去に実際に子供が落ちたことがある。また竹で足場を作っているため、凸凹しており、歩きにくく、危険が伴う。老人が杖をつけないなどといった問題があった。

2. 柱づくり

当初の計画では11月から工事が始められる予定であったが、市の事情により工事開始が延期に。メンバー内に緊張が走ったものの12月末から1月の半ばに工事が行われ、プロジェクトには支障を与えることなく、円滑に工事は進められた。



PHASE 2



3. 足場づくり

橋の高さが約9メートルあり、橋の建設をするにあたり足場が必要なため、ココナッツの木を用いて、足場を組み立てた。木の切り出しはボボン(重要人物紹介参照)が行ってくれた。

2016.12~2017.1
BUDGET:MUNICIPAL
CARRY OUT:MUNICIPAL

2016.2.21~2017.3.21

BUDGET:FIWC

CARRY OUT :FIWC & BRGY

4. ビームづくり

次に橋の背骨とも言えるビーム造りに移行した。このビーム造りにはスチールバーを用いた。ここではスチールバーを切る作業、曲げる作業、バーとバーを結びつける作業を行った。



5. フォーム造り

次に橋の枠組みとしてのフォームをベニヤ板で作成した。ここでは主にベニヤ板を指定のサイズに切る作業、それをはめていく作業を行った。

6. 床の骨組み造り

ビームと同じ要領でスチールバーを用いてフロアの骨組み造りを行った。作業としてビームとほぼ同じで、スチールバーを切る作業、曲げる作業、結びつける作業である。



7. 柱の空洞部分の埋め立て



橋の強度を高めるため、柱の元にある空間を埋め立てた。作業の内容としては、埋め立て用の岩を橋付近の崖から削り出す作業、その岩を柱の元へ運ぶ作業、そしてそれを柱の元に空いた穴の中に入れ、最後にコンクリートで固める作業を行った。

8. 床のセメントの流し

フォーム・骨組みが完成し、そこにセメントを流し込んだ。強度の関係上、1日で一気にセメントを流し込む必要があったが、この日は100人以上もの村人が集まってくださり、ミキサーを使わずすべて手作業でミックスメントをし、流し込むことが出来た。



PHASE 3



9. スロープの建設

ここでは従来階段であった部分を新しくスロープに作り変えた。作業内容は、中空ブロックでスロープの両端を形成、真ん中の空間に砂や岩を入れ、上から圧力をかける(人力)、セメントで周りを固めるといったものであった。

10. 手すり

転落防止のために手すりを橋の両端に設置した。この手すりの作業については使用する機材の関係から、専門の技術が必要とされたため、私たちのエンジニアであるロクロクさんの息子(クヤ リックリック)が全て行ってくれた。作業内容としては、手すり用のパイプの切断、パイプとパイプの溶接である。



*塗装、モニュメント作り

手すりが錆びるのを防ぐために手すりを赤色に塗装した。また橋の入口と出口に二本ずつある小さな柱にも色をつけ、その上に橋の名前である“NALIPAY 橋”(NALIPAY は現地の言葉で幸せ)と“ありがとう/Salamat”のメッセージを書いた。

モニュメント作りとしてスロープの右側面には今回のキャンプテーマである“刻”の文字とキャンパーの名前、日本とフィリピンの国旗を描いた。

2017.2.21~2017.3.21
BUDGET:BRGY
CARRY OUT :FIWC & BRGY

ワークを終えて

反省

ワークの交代や休憩のタイミングが悪かった

→ワークが始まってからしばらくの間、作業内容におけるメンバーの交代や作業の交代を時間で区切ることをしておらず、終わりの見えない状態でのワークによりメンバーには精神的・肉体的負担をかけていたように思う。後半になるにつれ、この点に関しては改善をしたが、最初から配慮できれば良かったと思う。

ペンキ塗りの際の対応が悪かった

→ワークの最終過程であるペンキ塗りではペンキ用の筆の少なさなどの理由により、全員での作業が難しかった。このことから作業の少ない日は、午前と午後で人を分けるなど、なるべくメンバーの負担にならないような工夫を取るべきであると感じた。

総括

今回のワークは規模が非常に大きく、ワーク決定時には予算や時間面など不安要素が大変多かった。この不安要素は市と村と協力することにより解決した。また、今回私達の滞在中、ワーク日が足りず、本来は休日である日曜の午前中も日本人キャンパー並びに学生たちの協力によりワークを行った。また、資材が不足した際にも村人の迅速な対応によりワークの進行に大きな影響を与えることはなかった。

このように不安要素をつぶし、円滑にワークが進んだのは市・村・FIWCの人々が“橋を完成させる”という目標に向かって気持ちを1つにすることが出来たからであると強く感じている。このような傾向の要因としては、今回新たに取り入れた Future Meeting により、一緒に汗を流して働く村人たちと交流をしたり、橋や村の未来について顔を見ながら話をしたり出来たことが挙げられる。

今回 FIWC 史上最大規模のワークを成功することが出来たのは、市と村と協力し、予算を出し合い最初の工事を市に任せることが出来たからである。昨年市を移動し、最初のワークを FIWC のみの予算で成功させたことにより、FIWC への信頼が生まれていたため、今回予算の交渉などの難しい問題も円滑に話を進めることが出来た。また、今回初めて予算を出し合っ、行ったワークを無事成功させることが出来たことにより、市と FIWC との信頼関係はさらに強固なものとなり、来年以降もこの市でプロジェクトをする場合は、FIWC の活動は円滑に進むであろうと期待できる。

また、今回私達が橋を建設したことにより、村ではその橋までの道を整備する計画が挙げられているという。FIWC の活動が村の発展の起爆剤になったのである。

今回のキャンプでは新たな試みを行なった事、市とのより強い信頼関係を築けた事など、フィリピンキャンプの未来につながるにとって非常に大きな意味を持つキャンプになったと手応えを感じている。

ワーク会計

【反省】

- 毎日収支を合わせ、領収書を書いてもらうことを徹底することができた。
- 会計報告書をワークリーダーに任せてしまい、無責任だった。

今回のワークは規模が大きいため、予想外の出費が発生しお金が足りなくなるのではないかと不安な部分もあった。実際、スキルワーカーを雇う日数を増やしたり、Future MTG 用のドリンクの準備をしたりなど、予算には含まれていなかった出費があった。しかし、ワークリーダーと協力し、エンジニアのロクロクさんと知恵を出し合って予算内におさめることができた。個人的な理由で、最後まで自分の仕事をしきらなかったのは本当に申し訳なかったと思う。事前にわかっていただけだから、もっと早めに動きだせばよかったと思う。とにもかくにも、無事予算内でワークを終わらせることができ、よかった。



【収入の部】

日本財団、NGO 福岡ネットワークの助成金に応募し、合計 50 万円を得た。

団体名		助成金額(円)
ガクボ		300,000.00
FUNN		200,000.00
		計500,000.00

オルモックにて換金し、2,175,000 ペソとなった。(1 万円=4350 ペソ)

【支出の部】

	項目 (単位)	予算	数	実費(円)
資材費	スチールバー20mm (本)	20,000.00	25	11,300.50
	スチールバー16mm (本)	7,500.00	28	8,260.00
	スチールバー12mm (本)	12,600.00	70	11,410.00
	スチールバー10mm (本)	19,500.00	110	12,650.00
	セメント (橋の床部分用) (袋)	36,000.00	150	33,750.00
	セメント (スロープ部分用) (袋)	-	68	15,300.00
	ベニヤ板 (枚)	9,100.00	20	7,000.00
	タイワイヤー (kg)	1,000.00	53	2,563.70
	釘 (kg)	3,500.00	66	2,695.00
	サンド、グラベル	33,600.00		33,600.00
	コンクリート用プライマー (個)	(以下ニュートライザーまででペンキ代として計2,000.00と見積もり)	1	150.00
	コンクリート塗装下地 (個)		1	158.00
	ペンキ黄 (L)		1	170.00
	ペンキ赤 (L)		1	189.00
	ペンキ青 (L)		1	170.00
	ペンキ緑 (L)		6	1,280.00
	ニュートライザー (個)		1	115.00
	ソケットセット (組)		1	470.00
	電球 (個)		2	470.00
道具費	ショベル (本)	(以下〇〇までで道具費として計8,000.00と見積もり)	9	2,837.25
	ディスクグラインダー (個)		1	1,898.78
	ハンマー (個)		2	446.55
	金切りノコ (個)		2	542.10
	金切りノコの刃 (個)		3	153.00
	のこぎり (個)		2	514.83
	ディスクグラインダーの刃(パイプ用) (個)		17	1,048.53
	ディスクグラインダーのブラシ (個)		1	126.10
	ディスクグラインダーの刃(コンクリート用) (個)		1	387.56
	コード (個)		1	20.35
	コンセント(個)		1	53.70
	チョーク (個)		3	15.00
	バケツ (個)		12	600.00
	ニッパー (個)		1	110.00
	メジャー (個)		1	85.00
	コンテナ (個)		6	200.00
	グローブ (組)		1	45.00
ローラー		1	55.00	
はけ		3	78.00	
				-
運搬費	トラック代 (回)	6,000.00	4	16,000.00
	ハバル用ガソリン代	-		385.00
				-
人件費	エンジニア (日)	23,550.00	28	25,550.00
	ココランバースキルワーカー	12,000.00		13,000.00
	スキルワーカー	6,500.00		7,900.00
	レタリングスキルワーカー (日)	-	1	500.00
				-
その他	future MTG用ドリンク代	2,000.00		1,855.00
	テフロンテープ			15.00
	バルブ			55.00
	パイプ			73.00
	T字管			19.00
				216,269.95

(計 497,172.3 円)

FUTURE MEETING 特集！！

Future Meeting について語る渡邊氏↓

記者 「本日はお願い致します。まず、初めに Future Meeting というのはどういったものなのかについてお聞かせください。」



渡邊 「こちらこそお願い致します。そうですね、Future Meeting というのは今年度から新たに取り入れたもので、毎日のワーク終了後に、バヤニハン (ワークに協力してくれる村人) と日本人キャンパー同士でワークについて、話し合いを行い、ワーク完成に向けて相互の意見や思いを共有するとともに、村全体の将来、村人一人一人の将来について語り合う中で、村人のイニシアティブを引き出すことや村全体の活性化を図るものです。その他にも、バヤニハンの正直な声、要望を聞き出すことでワークの進行の促進、村人との交流の機会を増やすことで自発的な交流の発生を図るという目的があります。具体的にはワーク終了後の 30 分弱の時間を利用して、スナックやドリンクを交え、気軽な交流の空間として、全体に向けてワークや村の将来に関する質問をいくつか行いました。その後にキャンパーとバヤニハンの自由な交流の場として堅苦しい質問に限らず自由な話題で各自交流を行いました。」

記者 「なるほど。それでは、実際に Future Meeting を行ってみてどうでしたか。率直な感想をお聞かせください。」

渡邊 「はい。まず Future Meeting を行うにあたって、下見の段階から一緒に必死に考えてくれた下見キャンパー、初めての

初めてのキャンプで戸惑うことがあったにもかかわらず趣旨を理解し協力してくれた全キャンパーに対して感謝を述べたいです。ありがとうございました。そして、実際にやってみた率直な感想としては、やってよかったということです。この Future Meeting を行うことでバヤニハン一人一人の顔、名前、個性についてよ



今年度新たに取り入れられた話題の FUTURE MEETING !!

その真相に迫る!!

く知ることができました。それによってワーク中も交流がしやすくなり、村人とキャンパーが協力してワークを作り上げていくことができました。キャンパーからは“バヤニハンとの距離感を縮められた” “バヤニハンから直接要望や感謝の声を聞けるのは嬉しかった” “もっと仲良くなるためにビサヤ語を覚えようという意欲につながった” などの感想が挙がっており共同労働という点においてお互いの信頼関係を築くことができました。実際に私も今回の新キャンパーのビサヤ語の習得の早さ、村人に積極的に交流しにいく姿勢には驚かされました。



現地での Future Meeting の様子↑

そういった点でも Future Meeting はうまく機能したのかなと感じています。今回のワークは大規模なものであったこともあり、一日ごとにバヤニハンが変わるという形だったので毎日 Future Meeting を行うことが重要でした。また、エンジニアのロクロクさんからは “いいアイデアだ、村人とキャンパーの交友関係を築くのは欠かせないこと。いつも私はそのことを気にかけているから、この Future Meeting はいい機会だ” “一日のワークの終わりをしっかり確認する意味でもいいものだ” との意見がもらえました。そして村の将来については、“今後、村をよくするために行われるプロジェクトがあれば今回のように助け合いの心でバヤニハンとして村に協力をする” “小さなインフラ整備を一つずつ村全体で話し合いながら改善していく” などの意見聞きだすことができました。その他各自将来の夢などについて語り合うことができ、その名の通り Future な Meeting にできたのではないかと思います。」

記者 「分かりました。それでは最後に今回の Future Meeting の反省点及び改善点、今後の抱負などについてお聞かせください。」

渡邊 「もちろん、すべてがうまくいったわけではありません。毎日 Future Meeting を行っているミーティングで反省、修正をしていく中で、たくさん改善点が見つかりました。まずは、負担に関してです。今回スナックを村に負担してもらいました。村のプロジェクトとはいえ、毎日の負担は大きかったと思います。また、遠方の citio (集落) から来ているバヤニハンには時間的に負担になっていたかもしれません。早く帰りたいがるバヤニハンもいました。言語面に関しても私たちがうまくコミュ



Future Meeting 後の写真撮影 ↑

対する価値観が違う、文化の違いなどに関してもより理解を深める必要があります。今回はその点が初めての挑戦なだけに不十分だったと

反省しています。しかしこれらに関してはすでにキャンパー内でいくつかの改善案を出しています。それらを基に修正して新たな村ではその村の状況に合った新たな形の Future Meeting が行われることになるでしょう。Future Meeting が今後のフィリキャンで残っていくかどうかには重きはありません。しかし、未来のキャンパーたちが彼らなりにフィリキャンの“村の自立促進”、“活性化の起爆剤になる”という大きな目的が少しでも達成できるよう試行錯誤して“変化させていこう”、“挑戦していこう”という気持ちはなくさずに現状に満足せず全力で悩み、考え、挑んでいってくれば、今回その一歩として Future Meeting を設けた意義があったのかなと思います。長くなりましたがありがとうございました。」

コミュニケーションがとれず困っていたばかりではなく、バヤニハンの中にも英語が話せない人が多く、コミュニケーション自体が負担になっていたかもしれません。そういった日本人からの視点だけではなく、村人からの視点にももっと着目すべきでした。また、肝心の未来についても質問が漠然としている、難しすぎる、どういう答えを求めているのか、などキャンパー内で事前に深く話し合っておく必要があると強く感じました。また、日本人と村人では“未来”に

今回建設した“NALIPAY 橋” ↓



←Future Meeting 後の写真撮影

“より愛されるキャンプへ
より村人に寄り添うキャンプへ
更なる高みを目指して
僕たちは止まらない“



今年度からの取り組み

Activity for Village

Activity for Village、通称アクフォビは今キャンプからの新たな取り組みであった。目的は、お世話になる村に感謝の気持ちをもって村のためにできることをするというものだった。日本での MTG 時から案を集い、フィリピンに到着した後ワークとの兼ね合いを考えて最終決定した。実際に行った活動としては清掃活動と紙芝居の二つがある。そのほか、食事準備の手伝いや農作業の手伝い、緑化活動などの案があった。

①清掃活動

フィリピンではごみはごみ箱に、といった習慣はあまりなく、ごみを道端にポイ捨てすることが多い。そこで今回、村の掃除を手伝うということでゴミ拾いを行った。3月12日の午後3時～4時の1時間行い、45リットルのゴミ袋3袋にも及ぶ収集を行うことができた。

良かった点

子供たちも手伝ってくれたこと

一部の人にはごみを捨てるのがいけないことだと再確認させることができたこと

反省点

事前の準備が十分でなかったこと

思った以上にごみが多く、目標の範囲まで清掃活動が行えなかったこと

改善点

実施回数をふやす

大人にも告知して清掃活動に参加してもらうこと

アクフォビ係を作り、準備をしてもらうこと



この清掃活動は実際に行うことができるのかわからず、事前の MTG においてもできればいいという曖昧な考えだったので、ゴム手袋などが不十分だった。メンバーの一人が用意してくれていたため、今回は問題なく行うことができたが、今後も実地をするなら係を設置する方がいい。

また、活動中子供たちはゴミ拾いを手伝ってくれたが、その後またごみを捨てていたの、おそらくどうしてゴミ拾いをしているのか理解していなかった。ゴミ拾いの意味から教えていくかどうかも視野にいれるべきだ。



②紙芝居

我々はアクフォビの一環として村の子供たちに自分たちで作った紙芝居を読み聞かせするという活動を行った。活動は約一週間毎日行い、その後学校の校長に渡し、子供たちがいつでも使えるように取り計らってもらった。



紙芝居の内容は日本の絵本三匹の子豚をモチーフとしたものである。紙芝居の目的は日本の文化として紙芝居を伝えること。教育面で少しでも村の子供たちに貢献すること、そして紙芝居という形態で子供たちに教育、最終的には村人の青年に教える側をまかせ、村内での自立的な読み聞かせや教育の伝達が行われることを図るというものであった。結果として子供たち同士で読み聞かせをしてくれ、我々の目的は果たせたのではないかと思う。

反省点

最後の方は子供たちもストーリーを覚え飽きてきていた感じだったので、内容をよりよいものにしなければならない